

山口県師範学校丙午学級修学旅行記（行政資料10内務-7）

人 ⑦

## 集合写真（記念写真）を撮る

### 《集合写真を撮る》

特別な行事や新たに集団が作られた時、そこに「集まり」、あるいはその集団に所属した証として集合写真（記念写真）が撮られます。

集合写真を撮る時には、一斉に正面を向き、カメラをよく見て、カメラマンのシャッターの合図と共に瞬きをしないように気を付けるなど、ある種の息の詰まるような緊張が強いられます。その場の全員で記念の一瞬を作るといった感じでしょうか。

集合写真は、いつ（時）、どこで（場所）、何のために人が集まり（目的）、そこに誰（人）が写っているかを確認できる貴重な資料ですが、ともすれば「誰が写っているか」を確認することで終わってしまいがちで、当事者以外からすれば動きのないやや退屈な写真です。

ここでは、集合写真がどのように撮られたのかに注目することを通して、その場の空気に迫ってみたいと思います。

### 《明治42年修学旅行団の写真》

上の写真は、明治42年（1909）、山口県師範学校で行われた修学旅行の集合写真です。近畿、関東地方を16泊17日で廻った大旅行で、後に旅行記が編集されました。写真はその口絵に収録されているものです。

この写真が日常のクラス写真でないのは明らかです。引率教員2名、体調不良等で参加できなかった5名を除く生徒49名が、荷物と雑嚢をたすきがけにし、足下はストッキング。まさに「旅行隊」といった格好です。肩の荷物には旅行用品のほか食糧としての米も入っているのかもしれませんが。

### 《写真の場を読む》

この写真はいつどこで撮られたのでしょうか。修学旅行では観光地で記念写真を撮ることはよくありますが、この写真はどうも観光地ではなさそうです。拡大してみると背後の建物の入口にうっすらと部屋の名前らしき字が見えますが、読み取ることは



山口県師範学校丙午学級修学旅行記（行政資料10内務-7）

この修学旅行は、明治42年4月12日から28日にかけて、16泊17日で行われ、ルートは山口→大阪→奈良→山田（伊勢）→名古屋→横浜→東京→日光→鎌倉→京都→神戸→宮島→山口でした。旅行後、生徒の手により、この旅行記が作成されました。

困難です。ガラス越しに、部屋の向こう側の天井まで続く大きな窓ガラスも写っており、かなりの大きさの建物のようです。ひな壇を組んで撮られていますので、出発前に写真技師を呼び学校で撮られたと考えるのが自然です。

しかし、旅行記によれば、この修学旅行は当初4月13日午後の出発予定であったものが、時節柄、京都本願寺参詣者で車が混むとの理由から急遽出発が繰り上げられ、12日午後8時に山口軽便鉄道の山口駅（現在の山口市民会館の所。師範学校はその向かい、現在の山口市役所の所）に乗り込んだとあり、出発直前の夜分にはこの写真は撮れません。旅行記には記述はありませんが、事前に今回の旅行の結団式が行われ、そこで撮られたのかもしれませんが。

### 《カメラ目線》

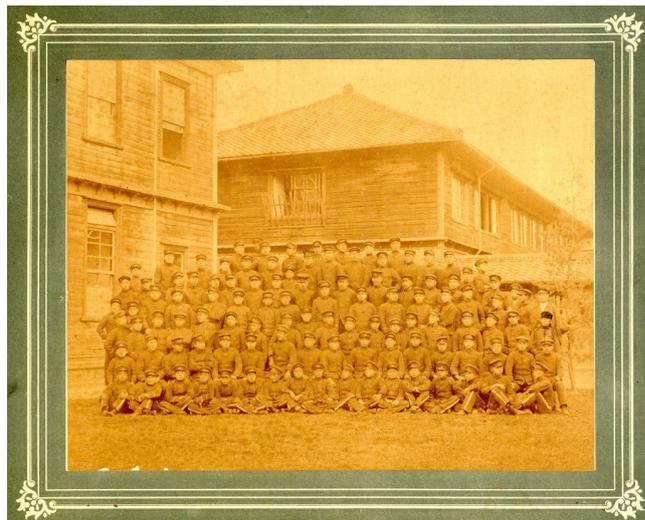
大旅行出発前の期待と緊張感に包まれていたと想像される、その写真としては、写っている一人ひとりを注意深く見ると、足を組んだり腕を組んだり、カメラを見ずに斜めを向いている生徒が多いのが気になります。やや集中力に欠けているようにも見え、今だったら、先生から「前をよく向きなさい」と叱られそうです。



実は、このころの集合写真を見ても、多くの場合、皆が一斉に正面を向いていないことに気がつきます。

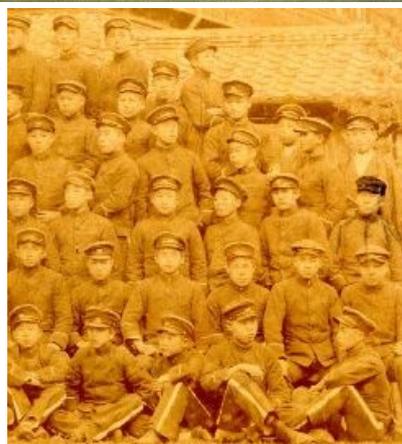
例えば、右上は山口中学校明治37年の集合写真です（亀田家文書178）。一見、クラスで校舎の前にきちんと集合して撮られたフォーマルな写真に見えますが、拡大してよく見ると、写真が撮られる時に、たまたまよそ見をしていたというよりは、明らかに横を向いたり、斜めを向いたり、腕を組んだり、カメラを意識してポーズを取っています。

集合写真の際には、カメラの前で思い思いに自分らしいポーズを取るとというのが当時の集合写真の写り方として普通だったのかもしれませんが、また、後で集合写真の中の自分をトリミングして引き延ばしても様になるようなポーズ



が意識されていたのかもしれませんが。

このことは、学生に限ったことではなく、一般の集合写真でもカメラから意図的に正面をはずす例がしばしば見られます。



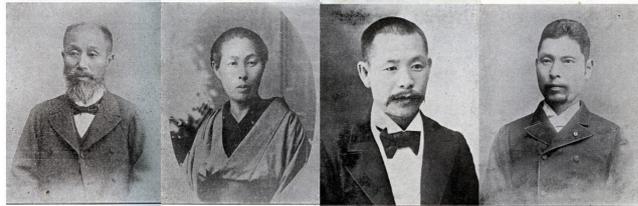
下の写真は『防長肖像鑑』で634人分の県内著名人の肖像写真が収められています（文書館図書281、明治43年発行）。その肖像写真のほとんどが斜めを向いており、カメラ目線を避けています。

「集まって」は撮るけれど、それぞれが肖像写真のごとく自分自身の写真写りの良いポーズで写る。今の我々の感覚よりも集合写真の写り方に自由があったと言えるそうです。

冒頭の写真も、一生の思い出となる旅行の写真だからこそ、一番のお気に入りのポーズで写ったのかもしれませんが。



君 郎 治 政 泰 君 郎 次 捨 木 橋 君 彌 義 田 大 君 トル | ヤウ  
長 校 學 女 等 高 口 山 町 口 山 長 校 學 中 國 岩 町 國 岩 長 校 學 範 師 縣 口 山 町 口 山 師 範 校 學 等 高 口 山 町 口 山



君 二 新 谷 大 君 ス ュ 村 中 君 六 猪 水 清 君 一 龜 富 重  
長 校 學 城 崎 町 口 山 主 校 學 女 糖 蒜 村 中 立 私 町 口 山 論 教 校 學 範 師 離 口 山 町 口 山 論 教 校 學 範 師 縣 口 山 町 口 山